

平成二十一年度 九州大学法科大学院第二次選抜

試験問題

(注意)
一 本試験問題は指示があるまで開かないこと。

二 本試験問題は(この表紙と白紙を除き)七頁、解答紙は二枚である。「始め」の合
図があったら、それぞれ確認すること。

三 解答文は横書きとし、所定の解答欄に記入すること。

第一問 次の文章を読んで、小問①、②に答えなさい。

〔出典〕 間宮洋介『増補』ケインズとハイエク』

(ちくま書房、二〇〇六年) 九一―九六頁

① この問題文の中で、著者は、自由を特徴付けるものとして、二つを挙げている。それぞれ何かを、各一行以内で記しなさい。
(配点一〇点)

② ①のように特徴付けられる自由について、著者は、「ハイエクは自由が自己変容を遂げ、自由の体系が内側から浸食されていく様を見ていた」と述べている。

ここでいう、自由の自己変容と自由の体系の内側からの浸食とは、それぞれ、どのようなことを意味するのか。また、それぞれの意味に関する解答(説明)に続けて、あなたの経験から適切な事例を挙げ、それぞれの何が問題なのかということをもとめなさい。
(六〇〇字以上八〇〇字以内) (配点四〇点)

第二問 次の文章を読んで小問①、②に答えなさい。

〔出典〕 三輪 正『議論と価値』(法律文化社、一九七二年)。なお、注は削除した。

① この文章において、筆者が「形式論理」および、「弁証法」あるいは「弁証法的論理」に対してとる立場と、筆者がそのような立場をとる理由を説明しなさい。

(二二〇〇字以上三三〇〇字以内) (配点二〇点)

② この文章は、この著書全体の「序」である。筆者が、この文章において、著書全体の課題とするのは、どのような問題であるか。この文章を踏まえて、かつ、あなた自身の経験・体験、あるいは、あなた自身が考える例を交えて説明し、かつ、評価しなさい。

(四〇〇字以上五〇〇字以内) 配点三〇点